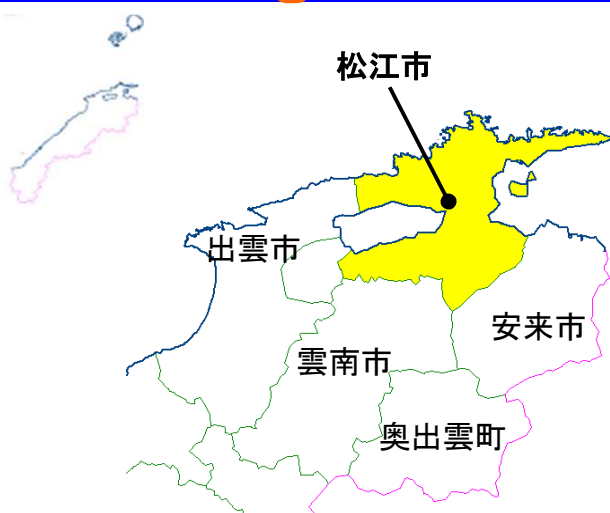


松江地域の農業



人口：約208,000人
面積：573km²



松江地域の農業の規模は、島根県内の農業産出額の約一割を占めています。地域の特徴としては、旧松江市に代表される都市近郊と旧東出雲町の平坦農村、松江市の中山間農村の各地域が混在し、結果として農業構造は多岐にわたっています。

農業産出額をみると米に対する依存度は高く、都市的地域から山間農業地域まで幅広く広がっています。

特徴的な作物としては、松江市湖北地区の早場米、施設野菜（松江市のきゅうり、松江市・東出雲町のトマト等）、露地野菜（松江市のなす、中海干拓地のキャベツ等）、西条柿（生果・干し柿）、花き（松江市のぼたん等）などがあります。

また、地産地消の取組が進められており、都市近郊の条件を活かし、新鮮で「顔」の見える地場野菜等の供給を行っています。

担い手の状況

市町名	認定農業者		集落営農組織			農業参入 企業数	新規 就農者数
		農業法人		特定農業 団体	特定農業 法人		
松江市	112	18	46	4	3	5	10
島根県計	1,232	286	599	47	114	94	120

※ 島根県農業経営課調査(平成24年3月末現在)による

松江地域の農業

地域内農業の主要指標

市町名		松江市	島根県
主要指標			
総面積	千ha	57.3	670.8
世帯数	千世帯	84.2	277.7
人口	千人	205.8	712.3
高齢化率	%	24.9	29.0
農家戸数	戸	5,279	39,467
販売農家数	戸	2,919	24,190
農業就業人口	人	4,122	32,271
農業就業人口高齢化率	%	73.9	74.4
耕地面積	ha	4,745	38,500
	田	3,356	30,800
	畑	1,389	7,560
耕地率	%	8.0	5.7
農家一戸当たり耕地面積	a	73.0	87
水田ほ場整備率	%	58.6	70.9
農業産出額(参考)	千万円	591	6,250
生産農業所得(参考)	千万円	194	1,980

- ※ 1 総面積：国土地理院「平成20年全国都道府県市町村別面積調
- ※ 2 世帯数、人口、高齢化率(65歳以上)：住民基本台帳年報(平成21年3月31日現在)
- ※ 3 農家戸数、販売農家数、農業就業人口、農業就業人口高齢化率：2010年農林業センサス
- ※ 4 耕地面積：島根県農林水産統計年報(平成22～23)
- ※ 5 水田ほ場整備率：島根県農林水産部農村整備課調べ(平成20年度末)
- ※ 6 農業産出額(参考)、生産農業所得(参考)：島根県農林水産統計年報(平成22～23)

新規就農者・認定農業者等への事業支援

種別	事業名	県内在住者				U・Iターン者 半農半×	補助(額)率
		新規 就農	認定 農業者	雇用主 補助	経営発展型 農業者(※)		
助成金	半農半×支援事業 (農業+×(兼業)就農前研修、実践者定住定着)					●	12万円/月 県1/2、市1/2
給付金	青年農業給付金 (45歳未満) (農業所得250万円以下) ※人・農地プランに位置付けられること。	経営開始型	●	●	●		150万円/年 最長5年間(国)
	準備型 (※研修期間)	●	●		●		150万円/年 最長2年間(国)
	中高年就農給付金(45歳以上65歳未満)		●				75万円/年 最長2年間(県)
補助金	経営体育成支援事業 (新規就農者補助事業、融資主体型事業)	●	●		●		国庫：1/2
	新農林水産振興がんばる地域応援総合事業 (経営施設等整備支援)	●	○ (経営継承支 援事業)	● (雇用創出 型)		●	県単：1/3 +市1/6
	農の雇用事業 (法人等に対して、雇用農業者の研修費を助成)			●			10万円/月 最長2年間(国)
資金関係	就農施設等資金 (経営開始に必要な施設、機械の購入に必要な経費) ※貸付期間：就農から5年間 ※償還12年以内(据置5年以内)	●					限度：青年3,700万円 限度：中年2,700万円
	農業経営基盤強化資金(スーパーL資金)		●				無利息(国) 利子補給最長5年

■その他の期間の助成 協会＝松江市農業振興協会 公社＝財しまね農業振興協会 財団＝ふるさと島根定住財団
※人・農地プランに位置付けられている担い手農家(認定農業者含む。)

補助金	農地流動化奨励金	利用権等の農地の借り手に対して交付	補助額(予算の範囲内) (市)※担い手加算あり
	担い手育成支援対策補助金(協会)	研修受入農家に対する助成	5万円/月 12ヶ月以内
	新規就農青年等研究活動支援事業(公社)	就農から1年を経過した新規就農者が行う自主的な研究活動経費の一部助成	5万円/月以内
	U・Iターンのための島根の産業体験事業(財団)	島根県外在住のU・Iターン者の農業体験	12万円/月 (3ヶ月～1年以内)

2

松江地域担い手育成総合支援協議会 事務局

〒690-8540 松江市末次町86番地 Tel:0852-55-5224 Fax:0852-55-5246 noui@city.matsue.lg.jp

松江地域の農業

特徴的な営農(例)

中海干拓(揖屋地区)

キャベツ産地

作付農地面積

202.8ha



平成21年度の作付調査結果によると、作目別では牧草(54ha)、キャベツ(31ha)、サツマイモ(7ha)、ブロッコリー類(6ha)、スイートコーン(5ha)、津田かぶ(3ha)の順で栽培されています。

近年の作付動向を5年前と比較すると、牧草、葉たばこ、津田かぶは減少傾向にあり、キャベツ、ブロッコリー類は幾分増加している。他作目の動きでは、地域特産物である「ぼたん」が4haから2haへ大きく減少している一方、サツマイモが3haから7haへ大きく増加しています。

表1 くになびきキャベツの生産実績

年 度	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	販売額 (千円)	単価 (円/kg)	部会員数 (人)
1	137	4.4	7,446	54	
2	185	13.8	22,276	120	
3	800	26.3	74,813	94	
4	752	32.4	36,737	49	
5	768	35.7	71,075	93	
6	807	41.3	99,166	123	
7	985	49.5	74,046	77	
8	914	39.3	59,933	66	
9	1138	38.2	93,291	82	54
10	785	38.2	123,411	161	55
11	837	35.5	50,477	60	57
12	526	28.3	46,090	88	48
13	638	30.8	35,968	56	46
14	507	27	49,694	96	44
15	416	24	26,554	63	44
16	443	24	50,619	114	41
17	449	24	37,914	84	40
18	538	26	25,422	47	40
19	501	27	42,267	84	40
20	706	27	64,215	91	44
21	900	30	69,811	78	45

中海干拓揖屋地区におけるキャベツ栽培は、平成元年の売渡しと同時に開始された。「くになびきキャベツ」として選果選別の徹底を図ることで当初から高い市場評価を得て、これを励みとして面積、出荷量が順調に伸び平成6年度に栽培面積40ha、販売金額1億円を突破しました。平成7年度を境に栽培面積はやや減少しているものの、県内では最大のキャベツ産地となっています。



伝統的特産物

干し柿産地(東出雲町)

年間生産量 約40万個

農地面積 約15ha



西条柿は広島県東広島市(旧西条町)が原産といわれ、戦国時代に中国地方を中心に広まったといわれています。

(毛利元就が兵糧としてこの干し柿を買い求めたことが、当時の文献に残っています。)

この畑地区において昭和30年に畑ほし柿生産組合が設立され、各農家で専用のほし柿小屋を保有しています。昔ながらの自然乾燥にこだわり、機械乾燥や添加物(二酸化硫黄)を一切付加しないで商品化するとともに、加工技術の伝承と品質向上などに取り組んでいます。

また、当組合は平成19年に果樹部門において県内唯一の「エコファーマー」の認定を受けるとともに、「豊かな村づくりコンクール」「朝日農業賞」「環境を守る農業生産部門賞」など数々の栄を受け、自然と調和した村づくりを目指し、地区の中心的な役割を担っています。

3

松江地域の農業

農業参入企業 耕作放棄地解消事例

有限会社 宝箱
(平成15年設立)

- 関連企業 松浦造園株式会社(建設業)
- 地区の農地面積 31ha(うち、耕作放棄地10ha)
(解消した耕作放棄地の面積 3.71ha)
- 作物名 茶、温州ミカン、レモン、柚子、エゴマ、そば、大根、ブルーベリー、小梅、金柑など

●地域の状況

大庭空山地区は、昭和50年代に県営のうち開発事業で整備され、主に柿、梅、茶等が栽培されてきたが、産業構造や国際状況の変化、農業従事者の高齢化、後継者不足などの要因から15年前から急速な農地の遊休地が進行し、31haある農地のうち、10haが耕作放棄地の状態となっていました。



由志園アグリファーム株式会社
(平成21年設立)

- 関連企業 有限会社 日本庭園 由志園
- 地区の農地面積 318ha(うち、耕作放棄地26ha)
(解消した耕作放棄地の面積 1ha)
- 作物名 牡丹、雲州人参、大根など

●地域の状況

松江市八束町の牡丹、雲州人参は国内有数の産地であるが、牡丹、雲州人参の生産量及び生産者は年々減少傾向にあり、担い手の育成・確保及び産地の復旧が喫緊の課題となっています。

また、318haの農地のうち、約26haが耕作放棄地となっており、解消に向けた取組が急務となっています。

H23年度 新規雇用就農の状況(24年4月～)	人数
農業生産法人	2
集落営農法人	1
認定農業者等	1
H24年度人材派遣会社⇒集落営農法人等への派遣実績	人数 3

23年度の雇用就農状況